

回天王寺の腹切 (六卷)

帝キネ小阪映畫

原作者 熊野八洲氏  
脚色者 松屋伝翠氏  
監督者 中川紫朗氏  
撮影者 下村綠甫氏

――主要役割――

水戸の志士 高橋多一郎 嵐 璃徳氏  
同 高橋左衛門 市川百々之助氏  
同 廣木松之介 尾上紋郎氏  
同 金子孫三郎 阪東豊昇氏  
同 關 鐵之助 尾上 紋綱氏  
島欣司兵衛 嵐 笑三氏  
後藤哲之助 市川 好之助氏  
妹 お静 津守 玉枝嬢  
祇園勤王 者玉勇 松枝 鶴子嬢  
關の妾いの 椿 惠美子嬢

〔略筋 省略〕

櫻田事件の後日譚で可成り悲壯なものではあるが中心人物がない爲に全體に統一がな 雜然たるものになつて終つて居る。志士が次第 憤死するものも三度と繰返されては鼻につく、然 亂闘又亂闘といふ所で一般の前受けはするであらう。中川氏の監督の手練れでテキパキ筋を運びだれさせない事は観者には嬉しい。最後の天王寺の場はさすがに悲壯な気分が出て居た。俳優はカールスタ・キラストで平均に動いて居るが嵐 璃徳氏、市川百々之助氏の高橋親子、松枝鶴子嬢の玉勇さが印象に残つた。撮影は平凡であつた。(六月廿六日 大阪映畫俱樂部) 山本綠葉

一切腹の寺王天 (版小キ帝)

